

新しい本が入りました！ ※別紙一覧表をご覧ください。



ノンフィクション本大賞 展示
作り話ではなく、事実に基づく作品群。
今、社会でどんなことが起きているのかが見えてくる。



令和3年の師走です。コロナ禍での2年目、何かと窮屈さを感じた年でしたが、残すところ一か月となりました。

12月6日(月)から冬季の無制限貸出が始まります。冬休みにじっくりと好きな本を読んでリフレッシュし、新しい年に向けて英気を養ってください。

○12月の新着図書を展示
冬休みのおススメ本もありますよ。

2021年ノンフィクション本大賞
『海をあげる』上間 陽子
(筑摩書房)

★特集展示 **ビブリオバトル**
1学年において実施予定
ビブリオバトルのルールや実践例を紹介

≪ 話題の図書の中から ≫



『シン・インターネット』
村井 純、竹中直純
(集英社インターナショナル)

IT、DXにより世界が進歩・変化するなか、インターネットの普及やインフラの整備に貢献し続ける村井氏と日本のデジタルを支え続ける竹中氏が対談。我が国のデジタルのかたちについて語る1冊。



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー(2)』
ブレディ みかこ
(新潮社)

「ぼく」は13歳になり、親離れの季節がやってきた。変わりゆく時代の中で、大切なことは何か。13歳になった「ぼく」の日常が問いかける。話題の前作に続く完結編。

『漫画サピエンス全史 人類の誕生編』
ユヴァル・ノア・ハラリ【著】
安原 和見【訳】
(河出書房新社)

世界的ベストセラー『サピエンス全史』を漫画化。歴史学だけでなく、人類学や考古学、サイエンスの最新知識も用いて、人類史を描く。カラーのイラストやエピソード、キャラクターなども登場。

『文明の正体編』も所蔵

図書館からのお知らせ

1. 雑誌の展示

1年以上前の古い雑誌を展示しますので、ご自由にお持ちください。

◆展示期間：12月6日(月)～12月24日(金)

◆対象雑誌：2020年12月までの除籍雑誌

※一人2点まで 先着順ですのでお早めに！

2. 図書の貸出冊数無制限

◆貸出冊数無制限期間：12月6日(月)～12月24日(金)

◆返却期限：1月12日(水) 厳守

◆冬季休業中の閉館日：12月28日(火)～1月4日(火)

12月・1月のカレンダー

グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
			12/1	2	3	4 土曜授業 午後閉館
5	6	7 期末考査	8 期末考査	9 期末考査	10 期末考査	11
	雑誌の展示 無制限貸出(始)					
12	13	14	15	16	17	18
	雑誌の展示					
19	20	21	22	23	24	25
	雑誌の展示					
26 冬季休業日 (始)	27	28	29	30	31 終業式 避難訓練	1/1 元旦
2	3	4 閉庁日	5	6	7 冬季休業日 (終)	8



『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』
佐藤 直樹
(世界文化社)

東京藝大で行われている講義をベースに作られた西洋美術の入門書。通史的に作品を概説するのではなく、著者の視点で選んだ作品について、クローズアップや補助線などわかりやすいビジュアルも使用して解説。

◆学習支援

『解きたくなる数学』

佐藤 雅彦、大島 遼、廣瀬 隼也
(岩波書店)



数学の本なのに、出てくるのはおいしそうなケーキやチーズ、チョコレートの写真。それらを使って身につくのは、論理の組み立て・抽象化・新しい考え方の枠組み・思考のジャンプなど。佐藤雅彦研究室が選んだ23問、解きたくなる数学を紹介している。

◆学習支援

『知的文章術入門』
黒木 登志夫
(岩波書店)



大学で長年論文執筆の指導や審査にあたってきた著者が、大学での講義をもとに、論文、報告書、レポートなど、事実と考えを正確に伝える文章術、プレゼン術を解説。日本語の事例や英語の文例も豊富でチェックリストも添付。

冬休みのおススメ本



『白光』
朝井 まかて
(文藝春秋)

明治5年、故郷の笠間(茨城県)を離れ画家を目指した山下りん。自分に西洋画の素質があるのではと考え、工部美術学校に入学し、西洋画を学ぶ。そんな折、りんは、神田のロシア正教会を訪ね、宣教師ニコライと出会い、その後ロシアへ渡り、激動の日々を送ることになる。日本人初の聖像画家・山下りんの生涯を描いた評伝小説。



『星のように離れて雨のように散った』
島本 理生
(文藝春秋)

日本文学科大学院生の春は、子どもの頃に父親が失踪したという過去がある。今、春は、『銀河鉄道の夜』に関する論文を執筆しようとしている。行方不明の父やその親戚、彼女を取り巻く仲間との関りの中で、人生の岐路に立つ女子大学院生の姿を描いた物語。



『やさしい猫』
中島 京子
(中央公論新社)

シングルマザーの保育士・ミュキが心ひかれたのは、八歳年下の自動車整備士・クマ。娘のママも面倒見のいいクマについて、穏やかな日々を送るはずだった。ところが、彼がスリランカ出身の外国人で、ビザ切れ・オーバーステイのため強制退去を命じられてしまうことになる。その取り消しを求めるために起こした裁判を通して、苦悩する家族の姿を描いた作品。



『ここはとても速い川』
井戸川 射子
(講談社)

児童養護施設に暮らす小学生・集は、年下の親友ひじりと淀川にいる亀たちを見に行くのが楽しみだった。そんな二人の少年の無邪気さと、大人の世界を垣間見ながら自分たちの世界を広げていく姿を描いた作品。表題作と合わせて『膨張』も掲載。

中原中也賞受賞の詩人による小説